



自転車事故・交通違反対策推進

現在、田中和徳は党の交通安全対策特別委員会で委員長を務めており、特に自転車に起因する事故防止・交通違反対策に、全力を注いでいます。自転車は身近で便利なツールですが、人命を奪う凶器にもなりえます。しかし、自転車の安全教育や違反者の取り締まりは充分とは言えません。

都市部において自転車事故が多発する主な原因

- ① 一時不停止、一方通行の逆走、スマホのながら運転、速度超過など、特に自転車利用者による交通ルールに違反した危険走行が多い
- ② 自転車専用の通行帯を設置できない狭隘道路が多い
その結果、自転車が歩行者・自動車と接触・衝突しやすい
- ③ 高齢化の進行による高齢者の自転車利用者の増加

1. 川崎市内は利用者が多く、自転車事故の多発地域

特に、川崎区は県内最悪の自転車事故多発地域で、対策が急務である。

《 交通事故に占める自転車関連事故の割合（2020年） 》

川崎区	幸区	中原区	川崎市全体	全国平均
39.3%	30.6%	42.4%	32.9%	21.9%

《 人口10万人当たりの自転車関連事故発生件数（2020年） 》

川崎区	幸区	中原区	川崎市全体	全国平均
114.4件	47.9件	43.2件	61.5件	54.0件

2. 川崎市の自転車事故防止対策

駐輪場の整備や路上駐輪の撤去、自転車レーンの設置をはじめとして、自転車関連事故の防止のため、川崎市も様々な施策を実施しています。川崎警察署も違反運転の指導や取り締りを強化し、成果を挙げています。

ただ、**事故を防止する上で最も重要なのは、交通安全教育**です。

警察と市役所、学校、町内会、老人会、タクシー事業者などが連携し、**あらゆる機会を通じて、徹底的に安全講習を推進することが肝要**です。

田中和徳も、川崎市の安全対策に引き続き全力で取り組みます。

3. 政府の自転車事故防止対策

本年3月29日、政府の第11次交通安全基本計画が策定されました。

その主要施策の一つとして、下記の**自転車事故防止対策**が示されました。

主な政府の自転車関連事故防止対策

① **歩行者・自転車・自動車間のスペース確保**

電柱の埋設、歩道の拡幅、自転車用駐車場や専用レーンの設置など、自転車と歩行者・自動車が十分な距離を取れる環境整備を進める

② **自転車の違反運転・危険運転の取り締り強化**

無灯火、一方通行の逆走、一時不停止など、違反運転検挙体制の強化

③ **道路交通法の遵守と交通安全マナーの普及徹底**

全ての自転車利用者に、ヘルメット着用と交通安全講習を励行する
自転車を用いた配達事業者に、交通安全対策への協力を要請する